

魚沼米品質向上チラシ

安全・安心で高品質・良食味

日本一の 「魚沼米」 づくり

魚沼米憲章

トップブランド「魚沼コシヒカリ」の
更なる飛躍を目指して

【序文】

トップブランド魚沼コシヒカリの産地として、魚沼の自然、そして何よりも消費者と向き合った米づくりを続けるため、以下四つの取り組みを魚沼米に携わるもの全ての共通理念として掲げ、生産者・関係団体が一体となって実践する。

- 一、魚沼コシヒカリを育んだ故郷魚沼の自然に感謝し、地域の環境保全、景観に配慮した農業を推進します。
- 一、日本一の良食味米産地として、消費者に最高の食味の魚沼コシヒカリを安定的に提供するため、「高品質・良食味米」の維持向上のための10か条を徹底して実践します。
- 一、消費者との対話に努め、常に消費者に安全・安心を提供していくため、「安全・安心の米づくり」に向けた5か条を徹底して実践します。
- 一、常に栽培技術の向上・研鑽に努め、米づくり八十八の手間を惜しむことなく、最後の一粒までトップブランド魚沼コシヒカリに仕上げます。

常態化する異常気象に対応するための
対策を徹底しましょう

【重点1】後期栄養の確保 | 生育に応じた適切な穂肥

【重点2】後期栄養の維持 | 中干し後の飽水管理

【重点3】斑点米防止 | 畦畔や本田の雑草管理・適切な薬剤防除

魚沼米改良協会

令和8年4月

「日本一おいしい」魚沼コシヒカリ生産のポイント

異常気象に強い稲づくりと品質の良い米づくり

土づくり、漏水防止、適量の基肥施用で、稲づくりの土台を整えましょう。

品質低下のリスクを低減するため、経営規模に応じて播種日を複数回に分け、田植え時期を分散させましょう。

確実に穂になる「良質茎」を確保するため、老化苗になる前に、健苗を適期移植しましょう。

倒伏防止のため、田植え25日後をめやすに茎数を確認し、目標穂数の7～8割程度になったら中干しを始めましょう。

中干し終了後は、田面が湿った状態を保つ水管理「**飽水管理**」を継続し、後期栄養を維持しましょう。

重点2

後期栄養を確保するため、穂肥は生育量や葉色に合った量を施用しましょう。出穂期直前でも、葉色が薄い場合は追肥しましょう。

重点1

雑草除去と適期防除で、斑点米を防止しましょう。

重点3

出穂期後の積算温度や籾黄化率を参考に、適期に収穫し、丁寧な乾燥・調製作業で高品質・良食味米に仕上げましょう。

重点1 後期栄養の確保 | 生育に応じた適切な穂肥

- 出穂期10日前以降の穂肥は、ほとんど倒伏に影響しません。
- 高温が続き葉色低下が予想される場合は、穂肥2回目(出穂期10日前)の施用量の増加や、出穂期3日前の追肥で後期栄養を確保しましょう!

【分施体系】

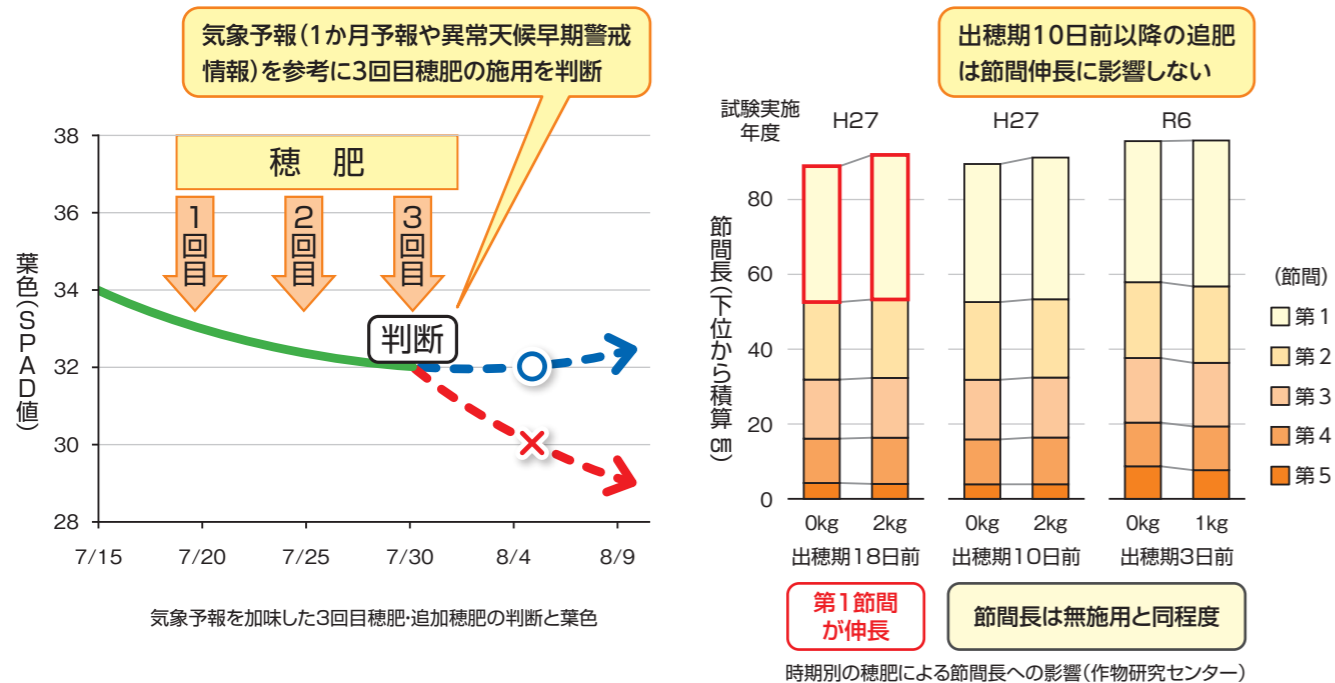
- ★ 穂肥1回目(出穂期18～15日前)は籾数確保に重要です。幼穂形成期に生育診断し、施用の時期と量を決めましょう。
- ★ 穂肥2回目(出穂期10日前)は必ず施用し、登熟期の栄養を確保しましょう。

【全量基肥体系】

- ★ 出穂期の葉色(SPAD値)が32～33を下回ると予想される場合は、追肥しましょう。

【分施・全量基肥体系 共通】

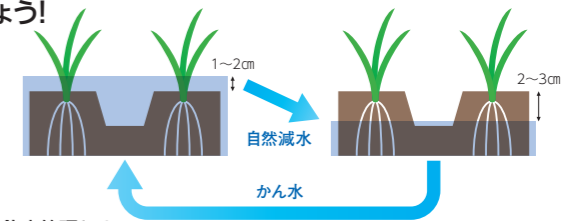
- ★ 異常高温による栄養凋落が懸念され、出穂期6～3日前に葉色が薄い場合は、出穂期3日前までに追肥しましょう。



重点2 後期栄養の維持 | 中干し後の飽水管理

- 高温でも根の活力を維持するために、飽水管理*を行いましょ!

- ★ 夏季の水不足に備えて、地区の用水組合等で水管理の方法を話し合いましょう。(例)水を流す水路の順番を決める、水番を設ける 等
- ★ 出穂期25日後まではイネの登熟に水分が必要です。土が湿った状態を保つ水管理(飽水管理)を続けましょう。
- ★ 湿った状態を保つことで、高温時の地温上昇が抑制され、根が健全に保たれます。



※飽水管理とは
水戻りを止めて浅く湛水した後、自然減水で田面の水がなくなり溝や足跡の底に水が溜まっている箇所が散見される状態になったらかん水すること。(根腐れ防止のため、水を溜め続けず)

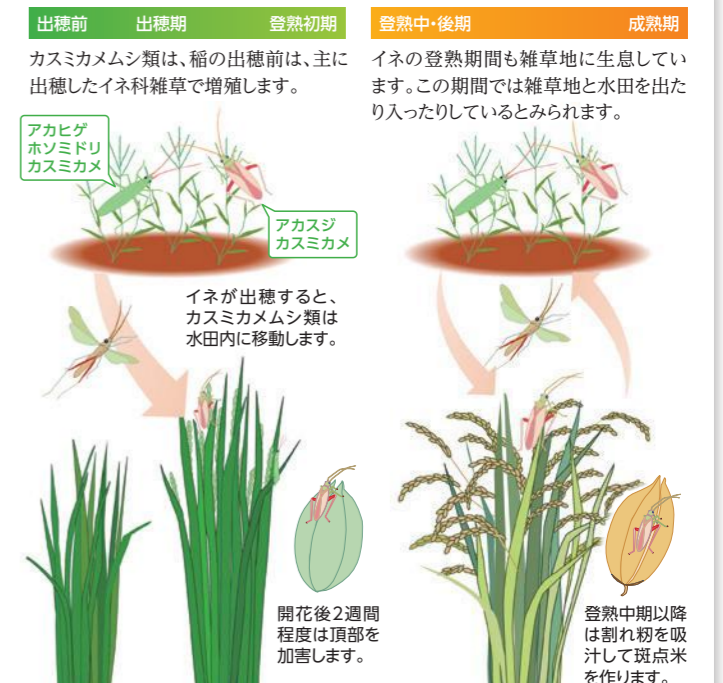
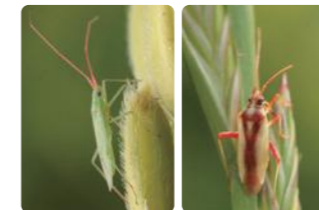
重点3 斑点米防止

- 斑点米の発生原因となる「斑点米カメムシ類」を増やさない!

- ★ カメムシ類は畦畔や農道のイネ科雑草で増殖するため、雑草が出穂しない間隔で除草を継続しましょう。
- ★ カメムシ類は、水稻の出穂後に水田へ侵入するため、増殖の元になるヒエ・ホタルイを除去しましょう。
- ★ 薬剤防除はイネの生育状況を確認し、効果の高い散布適期に行いましょう。(散布時期は薬剤ごとに異なるため、商品のラベルやパンフレット等で確認してください。)

代表的な斑点米カメムシ

- 左 アカヒゲホソドリカスミカメ
- 右 アカスジカスミカメ



出典：新潟県農業総合研究所作物研究センター「新潟県斑点米被害対策」パンフレット(令和6年6月)より

〈魚沼米憲章 実践のポイント〉

1. 「高品質・良食味米」の維持向上のための10か条

- (1) 美味しさと品質を最優先した米づくりとするため、目標収量は510kg/10a(8.5俵)を基準とすること。
- (2) 玄米タンパク含有率は、美味しさの基準である6.0%を目標とすること。
- (3) 稲わらや籾がらは、田んぼにすき込み、堆肥や土づくり肥料等を施用し、土づくりに努めること。
- (4) 種子は県内で穫れた種もみを使用し、毎年更新すること。
- (5) 高温登熟に遭遇するリスクを避けるため、田植えは5月中下旬を基本とすること。
- (6) 稲の生育に合わせて中干し・溝切りを行い、生育診断に基づき穂肥を施用すること。
- (7) 稲の稔りを良くするため、落水は穂が出てから25日以降とし、高温の場合は可能な限り遅くまで落水しないこと。
- (8) 胴割等の品質低下を防ぐため、適期に刈り取り、適正に乾燥すること。
- (9) 整粒歩合の高い米に仕上げるため、調製には1.90mm以上の篩い目を使用し、丁寧に調製すること。
- (10) 全量が1等米に格付けされるよう、稲をよく観察し、気象情報に留意して、適正に各作業を実践すること。

2. 「安全・安心の米づくり」に向けた5か条

- (1) 環境と調和の取れた農業生産活動を進めるため、みどりの食料システム戦略やSDGs等の環境負荷低減の取組に努めること。
- (2) 気象変動による品質低下を避けながら化学合成農薬・化学肥料の使用量を慣行基準の5割以上減らすことを目指し、環境にやさしい農業に取り組むこと。
- (3) 農道や畦畔は、草刈りを基本とすること。
- (4) 生産履歴を記帳し、いつでも履歴情報が公開できること。
- (5) 安全・安心な栽培につながるGAPの実践を目指すこと。

